

令和6年度東京都自立支援協議会「交流会」の参加報告について

都内自治体の自立支援協議会関係者を対象とした交流会が実施され、本区からは、定例部会委員1名、事務局3名が参加した。以下、交流会について報告する。

1 交流会の概要

タイトル	東京都自立支援協議会からの情報発信 障害当事者から見た地域移行・地域生活支援
日時	令和6年8月26日(月) 13:00~16:30
会場	東京都社会福祉保健医療研修センター
参加者数	114名(16区、14市) ※当日配布された名簿一覧から抽出
プログラム	(1)話題提起 ①東京都自立支援協議会からの情報発信 ・当事者参画を進める中で創りあげてきたもの ・協議会には当事者参画が大切である ・協議会での合理的配慮が当事者参画を推進させる ②障害当事者から見た地域移行・地域生活支援 ・私の大切にしている日常と一人暮らししたい気持ちを伝えたい (2)グループ討議 ・協議会において当事者の参画を進めるためには何が必要か ・障害当事者から見た地域移行・地域生活支援の課題とは何か

2 話題提起の概要

(1) 東京都自立支援協議会からの情報発信

①当事者参画を進める中で創りあげてきたもの

説明者	東京都心身障害者福祉センター地域支援課 東京都自立支援協議会事務局
内 容	・自立支援協議会における「当事者」の役割を「要望する人」から「提案・協働する人」とし、現在は身体障がい・知的障がい・精神障がいの当事者に委員に選任している。 ・令和3年度から、当事者が参加しやすい体制づくりを目的に、精神障がいのある当事者委員を1名から2名にした。このほか、知的障がいのある当事者委員については、当事者と支援者をともに委員に選任する形に変更した。 ・令和6年度～令和8年度の「東京都障害者・障害児施策推進計画」に、自立支援協議会への当事者参画の重要性が盛り込まれた。

②協議会には当事者参画が大切である

説明者	CIL ちょうふ代表 東京都自立支援協議会副会長(身体障がい当事者)
内 容	・協議会では障がい当事者の声が反映されるべきだが、ただ反映するだけでなく、その場に参加し意見を自由に言える場を設定しておく必要がある。 ・エンパワメントの視点が土台にあることで、本当のニーズに即した取組といえる。

③協議会での合理的配慮が当事者参画を推進させる

- | | |
|-----|--|
| 説明者 | 社会福祉法人ソラティオ 精神障がい者相談支援事業所コンパス 東京都自立支援協議会委員 |
| 内 容 | <ul style="list-style-type: none">・当事者中心に考えるべきとの視点を持ち、当事者の願いをできる限り実現していけるよう、意思決定の支援に配慮しながら支援の充実を図っていくべきである。・多様な障がい当事者が、自立支援協議会本会議だけでなく、紐づいている各部会にも参画することで、地域がより良く変わっていくことが望まれる。 |

(2) 障害当事者からみた地域移行・地域生活支援

①私の大切にしている日常と一人暮らししたい気持ちを伝えたい

- | | |
|-----|--|
| 説明者 | 社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 豊島区立目白福祉作業所 東京都自立支援協議会委員
(知的障がい当事者) |
| | 特定非営利活動法人クローバー事務局長 東京都自立支援協議会委員 (支援者) |
| 内 容 | <ul style="list-style-type: none">・説明者(知的障がい当事者)の現在の暮らしを紹介・地域には女性向けグループホームが少なく、友人が遠くへ引っ越してしまうことが悲しい・地域にたくさんグループホームが出来て、そこから今の作業所に通えるようにしたい・ずっと好きなことを続けて楽しく暮らしたい |

3 グループ討議の概要

当事者グループは9名×3グループ、それ以外のグループは10～13名×11グループに分かれ、ファシリテーター(事務局が用意)の進行のもと、話題提起の感想や2つのテーマについて意見を交換した。

グループ討議の内容について、全体発表から以下のとおり抜粋して紹介する。

①協議会において当事者の参画を進めるためには何が必要か

- ・「自立支援協議会」を当事者にも広く知ってもらう。
- ・開催方法をハイブリッド形式にするなど、当事者が発言しやすい雰囲気づくり。
- ・協議会への参加は手段の一つであり、参画を目的に考える必要がある。協議会への参加が難しい場合は、アンケートによる意見聴取や、参加する当事者経由で(同じ通所事業所を利用している等)意見聴取するなど、より多くの手段を考えていく必要がある。
- ・協議会に参加する当事者の合理的配慮事項を、協議会全体で共有する必要がある。

②障がい当事者からみた地域移行・地域生活支援の課題とは何か

- ・地域移行支援事業所や地域定着支援事業所だけでなく、ヘルパーも不足している。
- ・障がい特性に合った住宅が不足している。当事者自身の希望では選べていないのでは。
- ・支援者との意思疎通。当事者の希望を聞いて、同じゴールを見て支援できるスキル。
- ・地域で暮らす当事者との交流が、地域生活のイメージ作りに繋がりやすい。ピアサポーターの利用。
- ・地域住民の理解を得ること。

板橋区では、知的障がい、精神障がい、発達障がいの当事者参画が進んでいない。当事者の意見が反映される協議会をめざし、東京都における当事者参画も参考にしながら、本会や定例会への当事者参画を進めていきたい。